

マテリアリティ

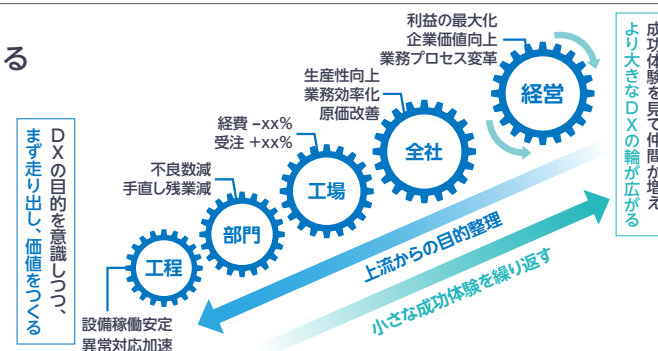
誰もがより活き活きと働ける環境の創造

年齢・性別・国籍・環境にかかわらず、AI・デジタルも活用しながら、誰もが能力を発揮し自己実現できる環境を提供していきます。

TOPIC 01 データで進化する製造現場

製造現場では、生産性向上と技能継承の両立に向け、データを活用した継続的な改善活動が進んでいます。重要なのは、データを集めるだけでなく、現場の気づきや工夫を次の行動へ結び付けることです。

NEC ネットズエスアイは、お客さまの目指す姿をともに描き、人や設備に関する情報を可視化。現場と経営が共通の情報をもとに対話し、改善を重ねられるよう伴走しています。設備の稼働状況や作業実績から改善の効果を確かめ、小さな成果を積み重ねながら、データを生かす視点の定着を図っています。さらに、蓄積された知見やノウハウを組織全体で共有し、品質と生産性の向上に加え、技能継承や人材育成にもつなげています。AI・デジタルを働く人の力へと変え、主体的な改善と新たな挑戦を促し、現場から進化が続く製造現場の実現を後押ししています。



働く環境から変える、自治体の未来

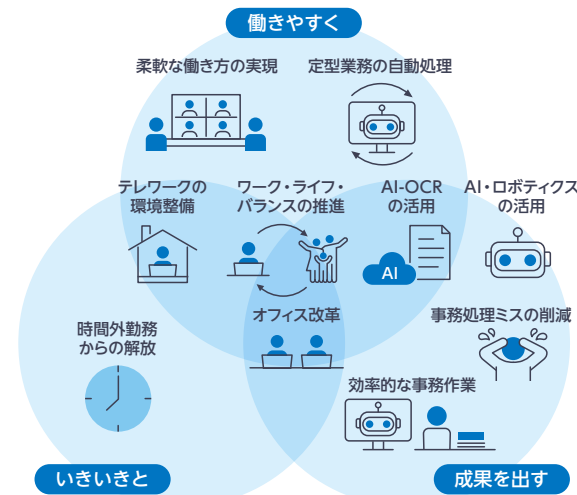
2040年に向けて生産年齢人口の減少が見込まれ、働き方も多様化するなか、自治体には、限られた人材で多様な行政ニーズに応える、持続的な行政サービスの提供が求められます。それには、旧来の業務や職場のあり方を見直し、一人ひとりが力を発揮できる働き方への転換が不可欠です。

ある自治体と進めたオフィス改革では、DX・AIを活用して、これまで以上の成果を出すためにも、まずは働く環境の整備を改革の起点と捉えました。職員の声を吸い上げ、対話を重ねながら理想の働き方を描き、空間・ICTを活用したオフィス環境の整備、運用ルールづくりまで一連のプロセスを伴走しました。

その結果、仕事の進め方が加速し、チーム内外のコミュニケーションも格段に活性化。一人ひとりの行動が自然と変化し、改革に向けた前向きな機運が醸成されたとの声をいただいています。働く環境が変わると、人と人とのつながりが深まり、意識や行動も少しずつ変わっていく。その積み重ねが、職員の働きがいや組織の活力を高め、より良い行政サービスへとつながります。

当社は今後も、AI・デジタルを活かしながら自治体の歩みに寄り添い、誰もが自分らしく能力を発揮できる環境づくりを通じて、地域の未来をともに支えていきます。

TOPIC 02



事例自治体における働き方改革の取組の方向性

マテリアリティ

先進テクノロジーを活かした 楽しく豊かな生活

最先端のモバイル技術等を活用した盤石な通信基盤の上にさまざまな情報サービスが提供され、人々が、安全で便利かつ、楽しく豊かに暮らせる生活を実現していきます。

豊かな未来につながる社会価値をかたちに

AIなどテクノロジーの進化が加速する中、誰もがその価値を享受できるよう、当社は先進技術を「現場で使える価値」へと転換する取り組みを「BluStellar」として進めています。

ローカル5Gや放送と通信の融合を通じて、暮らしに新たな価値を生み出し、社会の可能性を広げていきます。NECグループの先進技術とNESICホールディングス各社のシナジーを結集し、安全で楽しく豊かに暮らせる未来を創っていきます。



マーケティング戦略&オペレーションズ本部長
東海林 直子

TOPIC 01

技術を届け、その先の価値を支える

つながることが、暮らしの安心や便利さを生み出します。離れた人との会話も、必要な情報をすぐに受け取れる日常も、安定した通信基盤に支えられています。NEC ネットエスアイは、NECグループの価値創造モデル「BluStellar」のもと、モバイル技術などを組み合わせ、構築から運用・保守、改善までを見据えた仕組みづくりに取り組んでいます。

BluStellarの取り組みをさらに前進させるのが、NESICホールディングス各社の連携です。NEC ネットエスアイの全国の拠点と構築・運用力に、NEC フィールドイングの保守・サービスの専門性と現場対応力、NEC ネクサソリューションズの幅広い業種・業務で培った知見を組み合わせます。各社

の強みを結集し、お客さまの課題に応えながら、通信環境やサービスを長く安心して利用できる環境をつくっています。

新しい技術を暮らしに活かすため、実際に使う人の声や、運用のなかで見えてきた課題を改善につなげます。そこで得た知見を共有し、より使いやすく信頼できる仕組みへ磨き上げる。その積み重ねによって、通信基盤の上に新しいサービスや体験が広がっていきます。

先進技術と現場で培った人の力を結び、安心してつながる日常から、便利さや楽しさが広がる豊かな暮らしへ。NEC ネットエスアイは、グループ各社との連携を活かし、一人ひとりの暮らしに寄り添う新たな価値を形にしていきます。



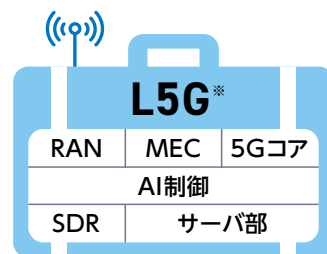
TOPIC 02 場所にとらわれない通信環境の実現へ

誰もが場所や環境にとらわれず、安心して快適に暮らせる社会の実現を目指し、NEC ネットエスアイはローカル5Gの社会実装に取り組んでいます。その中核となるHYPERNOVAは、東京大学との共同研究を通じて得られた成果を活かし、必要な場所に迅速に通信環境を構築できるシステムです。

近年、工場や建設現場、社会インフラの保守・点検などでは、映像やデータをリアルタイムで活用するニーズが高まっています。一方で、こうした現場では安定した通信環境の確保が課題となることも少なくありません。そこで当社は、より小型・軽量で、省エネルギー性にも優れ、さまざまな場所に設置しやすいローカル5G基地局の研究開発*を進めています。この取り組みは、現場の業務効率化や安全性向上だけでなく、防災・減災にも役立ちます。被災地や避難所、指令拠点で映像やセンサー情報を共有し、関係機関を迅速につなぐ通信基盤としての活用が期待されており、富士山火山防災や自治体の防災訓練でもその有効性を確認しています。

2025年7月には東京大学との社会連携講座を開設し、産学連携による社会実装をさらに加速しました。当社はこれからも、最先端のモバイル技術と現場で培った技術・運用ノウハウを活かし、通信を通じて誰もが安心してつながり、安全で便利かつ豊かに暮らせる社会の実現に貢献していきます。

* 本取り組みは、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)の補助事業「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業(JPNP20017)」として実施



※ L5G：ローカル5G

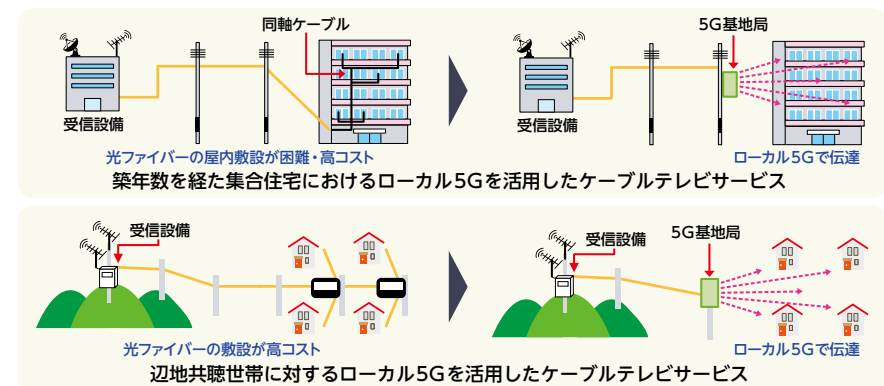
TOPIC 03 放送と通信の融合をめざす新たな研究開発

ケーブルテレビは、地域情報の伝達や災害時の情報提供を担う重要な情報インフラです。一方、築年数を経た集合住宅や山間部などの辺地共聴世帯では、光ファイバーの敷設が難しく、4K・8K放送など高度なサービスの提供が課題となっています。こうした課題の解決に向け、NEC ネットエスアイは総務省の研究開発プロジェクトのもと、ローカル5Gを活用したIPマルチキャスト放送(特定の複数の宛先に同時配信する仕組み)の実現を目指しています。

本取り組みは、工事・SIを中心に事業を展開してきた当社にとって、新たな領域への挑戦です。ローカル5Gをはじめとする通信技術を活用し、ケーブルテレビ向けIPマルチキャスト放送の高度化に向けた技術開発を進めています。現在はケーブルテレビ事業者と連携し、フィールド実証に向けた技術検証を進めています。

特長は、複数のアンテナを活用して通信品質と伝送効率を高めるMIMO技術により、放送に求められる高い信頼性と効率的なデータ伝送の両立を目指している点です。これにより、光ファイバーの整備が難しい地域でも高度な放送サービスの提供が可能になり、情報格差の解消や災害時の情報伝達基盤の強化にもつながります。

さらに、当社の提案は国際標準化機関ITU-Tにおいて勧告J.154として発行され、通信インフラ分野で培った技術力と知見が国際的に評価されました。今後も検証を重ね、システムの高度化を図っていきます。



What We Create

マテリアリティ

持続的に発展する社会の安全安心を支える万全なサービスの提供

高い品質と全国展開力で、安全安心なサービスを実現し、経済の成長に欠かせないICTの発展・高度化を支えています。

社会インフラのその先へ — 知見をつなぎ、安心して暮らせる社会を —

安全安心な社会は、日々の現場を支え続ける積み重ねの先にあります。私たちは、お客さまやパートナーとともにシステムを構築し、運用・保守を通じて社会インフラを守り抜いてきました。

培ってきた多様な知見と技術を結集し、平時から有事まで途切れることのない“つながり”を形にしていきます。当社はこれからも、人々が安心して快適に暮らせる社会の実現に全力を尽くします。



取締役執行役員常務
兼 システムズエンジニアリングサービス事業本部長
野口 亨史

TOPIC 01 全国に広がる現場力で支える安全安心

社会や企業活動に欠かせない通信インフラ。その安定運用を24時間365日体制で担い、安全安心なICTサービスの継続提供を実現しているのが、NEC ネットズエスアイの全国保守体制です。全国124拠点に広がる保守ネットワークと高度なオペレーションにより、高品質かつ迅速な保守サービスを提供し、ICT基盤の発展・高度化を支えています。

当社の保守サービスは、大手通信キャリアのネットワーク設備をはじめ、放送・メディア設備、郵便局、官公庁、企業のICTシステムなど幅広い領域を対象としています。なかでも通信局舎やデータセンター、法人拠点を対象とした保守では、障害発生時の駆け付け対応や部材配送を行い、ネットワークの安定運用に寄与しています。24時間365日対応のコ

ールセンターを起点に、テクニカルサポート、フィールドエンジニアの手配・統制、保守部材の物流までを一体的に運営することで、全国どこでも迅速な復旧対応を実現しています。さらに、全国各地で活動するエンジニアが地域特性や現場状況に応じた対応を行うことで、災害時を含むさまざまな場面においても安定したサービス提供を可能にしています。

今後は、AIやデジタル技術を活用した受付業務や要員手配の効率化、現場支援の高度化を進めることで、持続可能で強靱な保守サービス体制の実現を目指します。これからも全国に広がる現場力と高い品質を強みに、社会や企業活動を支える重要なインフラの安定運用に貢献していきます。



保守作業の様子(訓練時)

What We Create

TOPIC 02 消防DXが切り拓く次世代の消防・救急

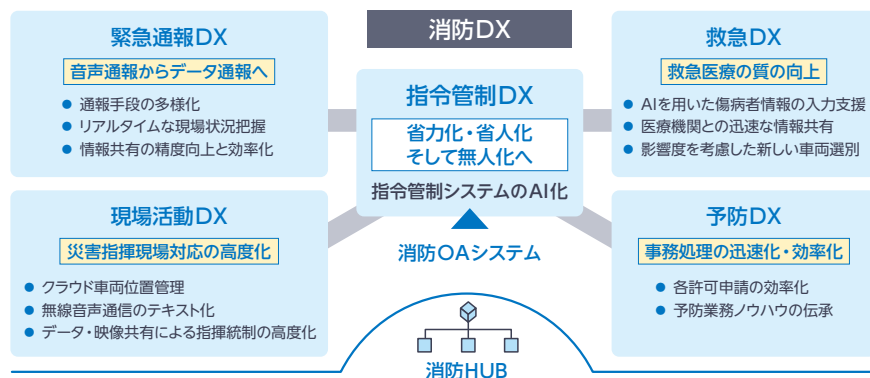
近年、自然災害の激甚化や高齢化の進展により、消防・救急サービスに求められる役割はますます大きくなっています。一方で、救急需要の増加や担い手不足など、消防現場を取り巻く課題は複雑化しています。

NEC ネットエスアイは、こうした課題の解決に向け、消防DXに取り組んでいます。消防指令システム、消防無線システムをはじめとする基盤領域にAI技術やデータ活用を組み合わせることで、迅速かつ確かな意思決定や業務効率化を実現し、消防・救急活動の変革につなげています。

当社の強みは、通報受理から出動判断、現場活動、医療機関との連携まで、消防・救急業務全体を俯瞰し、現場の課題に総合的に対応できる点です。また、災害・救急活動を通じて蓄積された多様なデータを分析し、消防活動の見える化や情報利用を促すことで、意思決定の迅速化・精度向上を図り、消防力の強化に結び付けています。

人命を預かる消防システムには、極めて高い品質と信頼性が不可欠です。だからこそ当社は、これまでの導入実績から培った知見とICTを融合し、現場に即した確実性と使いやすさを追求しています。

今後も消防DXを通じて消防・救急活動の変革を加速するとともに、地域社会のレジリエンス向上と社会インフラの進化を後押ししていきます。



TOPIC 03 海底から、日本の防災を支える

日本は世界有数の地震・津波多発国であり、人々の命や暮らしを守るには、迅速で正確な防災情報が欠かせません。NEC ネットエスアイは、海底地震・津波観測システムの構築から運用支援・保守までを通じて、日本の防災インフラを支えています。

北海道沖から房総沖をカバーするS-net、南海トラフ地震の想定震源域をカバーする東南海ケーブルシステム、DONET、N-netなどの海底観測網は、緊急地震速報や津波情報、自治体の防災活動、地震・津波研究を支える重要な基盤です。海底で観測されたデータは、防災情報や地震・津波研究に活用されており、こうした技術や知見は海外の海底観測プロジェクトにも展開されています。

当社は、防災科研やJAMSTEC、気象庁との対話を重ねながら、観測に求められる要件を具体化し、システムの構築から運用・保守までを担ってきました。長年にわたり主要な海底地震・津波観測網の整備と運用を支えてきた経験を活かし、長期運用を見据えたシステムづくりに取り組んでいます。深海に設置され、容易に修理できない海底システムには長期安定稼働が求められるため、設計段階から保守性や信頼性を重視しています。

停止が許されない重要な社会基盤である観測網を、継続的な運用支援と保守によって安定稼働させることが、迅速で正確な防災情報の提供を支えています。当社はこれからも、防災インフラの安定運用を通じて、人々の安全安心な暮らしと持続的に発展する社会の実現を目指します。



海底観測装置